

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	幸区第2グループ(南加瀬・小倉・北加瀬)	評価対象年度	平成24年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	子ども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	幸区子ども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 南加瀬子ども文化センター ①年間延べ利用者数 29,156人 ②年間延べ利用団体数 551団体</p> <p>2 南加瀬小学校わくわくプラザ ①登録者数 214人 ②年間延べ利用者数 12,926人</p> <p>3 夢見ヶ崎小学校わくわくプラザ ①登録者数 150人 ②年間延べ利用者数 8,925人</p> <p>1 小倉子ども文化センター ①年間延べ利用者数 23,763人 ②年間延べ利用団体数 259団体</p> <p>2 小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数 222人 ②年間延べ利用者数 13,867人</p> <p>3 東小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数 209人 ②年間延べ利用者数 9,632人</p> <p>1 北加瀬子ども文化センター ①年間延べ利用者数 23,116人 ②年間延べ利用団体数 177団体</p> <p>2 日吉小学校わくわくプラザ ①登録者数 366人 ②年間延べ利用者数 17,448人</p>
収支実績	<p style="text-align: right;">単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 140,225,614</p> <p>2 支出 人件費 115,626,455 事業費 7,386,900 事務経費 15,048,252 その他経費 226,413 合計 138,288,020</p> <p>3 差引 1,937,594</p>
サービス向上の取組	利用者満足に関するアンケート調査や日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。グループ単位のスケールメリットを活かした交流行事・事業の実施。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 子ども運営会議や運営協議会等の意見を反映した誰もが参加できる行事(子ども文化センターまつり、もちつき等)を行い、総勢で800名を超える参加があった。グループ行事として「ハッピーキッズキャンプ」「子ども運営会議」「早春ドッジボール大会」を地域の中学生、高校生のボランティアを活用して実施した。幸区内6館の合同行事として「さいわいキッズシティ2013」を開催し、区内小学生164名という昨年度を大きく上回る参加者で、交流を深めることができた。子ども文化センターの利用者が前年度と比較して、2.8%増加した。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続  効率的・効果的な支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
<p>支出に見合う効果が得られているか</p> <p>(評価の理由) 金銭管理・会計手続についても、適切に行われ、概ね提案どおりの経費執行であった。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
<p>(評価の理由) 毎月のお便りやパンフレットを関係機関に配布するなど、こども文化センターの施設や事業を積極的に周知して利用者の増加に繋げている。特別な配慮を要する利用者へは、参加カードや保護者懇談会などにより、保護者との情報交換を密に行うことで、個別の対応についての理解を深め、適切な対応を行っている。こども文化センター運営会議や、保護者懇談会などを定期的に開催し、また、館内に意見箱を設置するなどして児童・保護者・地域の方々の意見や要望を収集して事業運営に反映させている。父親の育児参加を促すため、区内6か所のこども文化センターの土曜日開所を活用して、子育て支援講座(パパッとサタデー)を区の事業と連携して毎月1回開催し、地域の子育て支援に貢献している。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) こども文化センター及びわくわくプラザ共に、提案どおり適正な職員配置がされている。研修に職員が積極的に参加しており、職員のスキルアップを図るため、提案どおり研修が実施されている。個人情報等の取扱については、情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来たすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 施設・設備の保守点検や必要な補修工事、備品管理等を適切に実施している。安全点検マニュアルや事故対応マニュアルを作成し、事故防止及び感染症予防等の衛生管理に取り組んでおり、食中毒等の事故はなかった。消防避難訓練等を実施し、災害発生時のマニュアル等も整備されている。こども文化センターに発電機や簡易トイレを設置し、災害時対応を強化するとともに、児童が活動する場所の蛍光灯を飛散防止蛍光灯に切り替え、わくわくプラザに防災遮光カーテンを設置するなど、防災体制の強化に努めている。</p>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

これまでこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わってきた経験や、市内の多くのこども文化センターの指定管理者となっているスケールメリットを活用して、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区役所との合同行事の実施、全市規模の行事の実施を行っている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、こども文化センターの利用者が利用しやすい環境の整備に努め、児童が安心して過ごせるわくわくプラザの運営に努めること。